

『じどう車くらべ／じどう車ずかんをつくろう』

1年

—言葉にこだわって、事柄の順序や関係を捉える—

■ 設定の趣旨

事柄の順序を捉えることは、「読むこと」の説明的文章における第一歩である。特に、第1学年では、順序を考えながら内容の大体を捉えて読むことが国語科の目標となっている。学年が上がっていくと、段落相互の関係を捉えたり、文章全体の構成を捉えたりするなど、読み方もいくつかの観点が複雑に関連してくる。事柄の順序を捉えることは、その基礎的な部分であり、低学年で身に付けるべき力である。

児童はこれまでに「くちばし」や「うみのかくれんぼ」でも同様に、問答という言語形式に着目し、事柄の順序を考えながら内容の大体を捉える学習を繰り返し行ってきた。そこで学習してきたことと結びつけて、「じどう車くらべ」の問いに対する例の挙げ方の順序性にも気づかせていきたい。その際、「しごと」という言葉と「つくり」という言葉が鍵となる。そして、「しごと」から「つくり」という内容のみの順序性だけでなく、『しごと』のこと、そのために『つくり』がある」という理由の関係性もつかませたい。「しごと」と「つくり」を関係付けることによって、思考力を働かせ、深い学びにつながっていくと捉えている。

このように、事柄の順序と関係を捉える活動を通して、汎用性のある読む力を身に付けていきたい。学習を進めていく際には、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、どの子も自分の考えを表現し、友達と考えを共有しながら、学んだことを振り返り、メタ認知していく過程を大切にする。そのツールとしてノートを活用する。

■ 指導目標

○ 問いについて、自動車の種類ごとに順序づけられて例示されていること、そして、「しごと」と「つくり」という一定の観点に基づいて順序づけられ説明されているということを理解できる。

【知識及び技能】

○ 「しごと」と「つくり」がどのような順序によって説明されているかを考えながら、文章の構造を大づかみに捉え、自動車のつくりや動きなどについて絵や写真なども手がかりにしながら、文章全体と各段落に書かれている内容を把握することができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○ それぞれの自動車について内容を捉えるために、「しごと」や「つくり」に係る重要な語や文を考えて選び出すことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○ 自動車の本（やさしい図鑑や科学的読み物等）に興味をもち、そのしごとやつくりについて進んで調べようとしている。

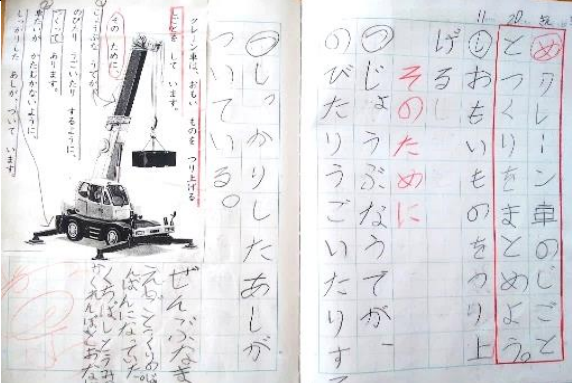
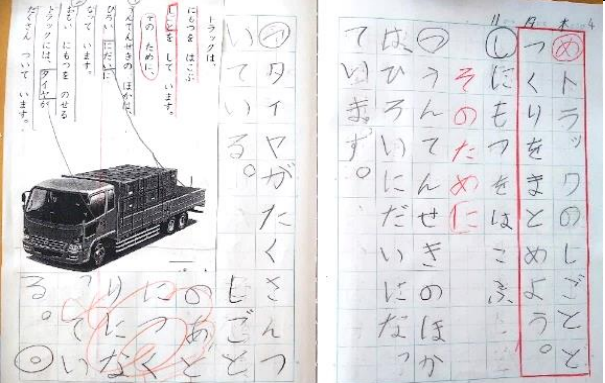

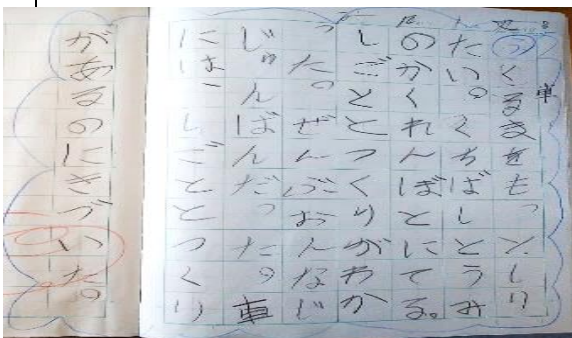
【学びに向かう力、人間性等】

■ 指導計画（7時間）

※ 指導計画の中で、実際に児童が書いたノートを示す。

次	時	学習活動	指導上の留意点と評価規準・評価方法
1	1 2	<p>1 自動車の写真カードを自由になかま分けする。なかまには、『つくり』（構造）『しごと』（動きや働き）があることをカード操作を通して実感する。</p> <p>2 二つの問いの文や出てきた自動車を確かめ、学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">しごととつくりでじどう車のことをノートにまとめよう。</div> <p>※ 「しごと」と「つくり」については、言葉の理解が難しいため、1での体験を常に想起させながら進める。</p>	<p>○ いろいろな自動車を想起させるために、自動車の写真カードを準備する。児童の既知や原体験のなかまわけ操作から、キーワードになる「しごと」と「つくり」の言葉の理解を深める。</p> <p>○ 説明の文「くちばし」「うみのかくれんぼ」の問いと答えの関係や順序性について振り返り、「じどう車くらべ」の共通する部分に気づけるようにする。</p> <p>○ それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」に着目させるために、「どんなしごとをしているかな」「どのようにうごくかな」や「どんなつくりになっているかな」と問う。</p>
2	3 4 5	<p>3 それぞれの自動車の「しごと」と「つくり」を読み取り、ノートにまとめる。</p> <p>①バスやじょうよう車</p> <p>②トラック</p> <p>③クレーン車</p>	<p>○ 「しごと」「つくり」の順序で説明されていることを視覚的に把握できるように、「しごと」の文を赤、「つくり」の文を黒で色分けする。</p> <p>○ 「しごと」と「つくり」が混同しないようにする。「しごと」と「つくり」を区別したり、それらの関係性を捉えたりさせるために、ノートの自動車の絵の中で、「しごと」をするために必要な「つくり」に○をつけ、教材文と線で結ばせる。</p> <p>○ 「しごと」と「つくり」を関連付けて考えさせるために、「そのために」という言葉に着目させたり、動作化や動画視聴で「しごと」と「つくり」の様子を想像させたりする。</p> <p>【知・技】 ノート・発表・振り返り</p>

わたしの授業

		
<p>学習の最後に本時で、分かったことやできたことなどを、記号や言葉で振り返りを行う。</p>		
	<p>4 「はしご車」の「しごと」と「つくり」のエラーモデルから、次時の学習の見通しをもつ。</p>	<p>○ 「しごと」と「つくり」の関係性を捉えさせるために、「しごと」と「つくり」の整合性がとれていないエラーモデルを提示し、間違いに気づかせる。</p>
<p>3 6 5</p>	<p>はしご車の「しごと」と「つくり」を考え、ノートにまとめる。</p> 	<p>○ 思いつく「しごと」や「つくり」を出させて、関連性のあるものを結び付けて話し合わせる。 【思・判・表】話し合い活動・ノート</p> <p>○ 書くことが苦手な児童のために、「しごと」と「つくり」の選択肢を用意して全員が取り組めるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しごと→高いところにいる人を助ける →火を消す ・つくり→はしごが伸びたり縮んだりする →はしごの先にホースが付いている <p>○ 早く考え終わった児童には、「じどう車ずかん」を作ることを見通して、他の自動車の「しごと」と「つくり」を考えさせる。</p>
<p>4 7 6 7</p>	<p>6 どのような順序で説明しているかを話し合い、説明の工夫を見つける。</p> <p>7 単元を振り返る。</p> 	<p>○ 順序に着目し構成について考えさせるために、全文表で全体を把握できるようにする。</p> <p>○ 根拠をもって説明の工夫について考えられるように、「どうしてそう考えたの」「どこからそう思ったの」と理由を問う。</p> <p>○ 学習の振り返りができるように、振り返る際の観点を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったこと ・できたこと ・友達の考えの良かったところ（納得） ・もっと知りたいこと ・生かしたいこと <p>【知・技】【思・判・表】ノート・発表</p>

■ 指導のポイント

〈第5時の扱い〉

学習活動	教師の働きかけ				
<p>1 前時を振り返り、本時の学習のめあてを設定する。</p>	<p>○ 「しごと」と「つくり」をノートで振り返らせ、今回も同じようにまとめることを確かめさせる。</p>				
<p>クレーン車の「しごと」と「つくり」をまとめよう。</p>					
<p>2 学習の流れを確認する。 3 全体で音読する。</p>	<p>○ クレーン車の文章ではどのようなことが書かれているか確認するために、全体で音読させる。</p>				
<p>4 「しごと」と「つくり」に線を引いて、書き抜く。</p>	<p>○ 視覚的に「しごと」と「つくり」が分かるように、「しごと」は赤で「つくり」は黒で線を引かせる。</p>				
<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">つくり</th> <th style="width: 50%;">しごと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いしうた②りたう① てたにむ車すりでじ いるあしかないごう ががいがいのぶ つりよかたびな</td> <td>つりおも りあいの あげもの るのを</td> </tr> </tbody> </table>	つくり	しごと	いしうた②りたう① てたにむ車すりでじ いるあしかないごう ががいがいのぶ つりよかたびな	つりおも りあいの あげもの るのを	<p>○ 話し合う際は、叙述に着目して考えさせるために、どうしてそのように線を引いたのか理由も話し合わせる。</p>
つくり	しごと				
いしうた②りたう① てたにむ車すりでじ いるあしかないごう ががいがいのぶ つりよかたびな	つりおも りあいの あげもの るのを				
<p>5 隣同士で確認する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「そのために」の前がしごとで、後がつくりになっていたよね。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>つり上げる「しごと」つて書かれているよ。 つくりが2こある。</p> </div>	<p>○ 「しごと」の様子が想像できるように、「おもいものをつり上げる」という動作を動作化させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重いものをもつとどうか ・つり上げるときはどのように動かすか 				
<p>6 動作化を交えながら、「しごと」と「つくり」について考える。</p>	<p>○ 「しごと」と「つくり」の関連性を理解させるために、「丈夫な腕じゃなかったら」「のびたり動いたりしなかったら」「脚がしっかりしていなかったら」などと、必要なつくりがない場合を考えさせる。</p>				
<p>7 学習の振り返りをする。</p> <p>例・しごと、つくりのじゅんばんだった。 ・じょうぶなうでだから、つりあげられる。</p>	<p>○ 振り返りができるように、「分かったこと」「気づいたこと」「生かしたいこと」という観点を示す。</p>				
<p>8 はしご車で「しごと」と「つくり」を考え、次時の見通しをもつ。</p> <p>※ 「バスやじょうよう車」と「トラック」の文章で、授業の流れや文の順序性が分かってきている。そこで、本時の最後に「はしご車」の導入を取り入れて、次時の見通しをもたせる。</p>	<p>○ 「しごと」と「つくり」の関連性を考えてまとめられるようにするために、整合性がとれていないエラーモデルを示し、間違いに気づかせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【エラーモデル】</p> <p>たかいところに いるひとをたす けるしごとを しています。</p> <p>【そのために、】</p> <p>はしごのさきに ホースがついて いて、水を出す ことができます。</p> <p>火を消す仕事に 関係するつくり</p> </div>				

■ 後記

単元の最初に「くちばし」や「うみのかくれんぼ」についてノートで振り返りを行ったことで、既に学習した説明的文章と結び付けながら事柄の順序を意識して学習する児童の姿が見られた。また、「はしご車」においては、エラーモデルを示すことで「しごと」と「つくり」の関係性について深く考える姿も見られた。いずれも、教材文の言葉にこだわって取り組んでいた。

「しごと」と「つくり」の関係性を捉えさせる方法は、エラーモデルを示すほかに、「しごと」と「つくり」に関する言葉をたくさん集めてなかまわけをしたり比べたり、自動車の模型や実物に触れて「しごと」と「つくり」についてじっくり考えたりするなど、さまざまな方法が考えられる。児童の実態に合わせて、新たな方法を編み出して工夫していきたい。

ここでは「じどう車くらべ」だけ扱ったが、次の教材「じどう車ずかんをつくろう」では、学習したことを生かし、やさしい図鑑から「しごと」と「つくり」を探し出すことができた。どの言葉を選ぶべきか悩んだ児童もいたが、友達や教師に訊いたり、ノートや教科書を振り返ったりして、粘り強く考えていた。最後にはみんなが書いたものを集めて、ひとつの図鑑に仕上げた。

今回、ノートを活用することで、自分の考えを書いたり、それをもとに友達と対話したり、学習を振り返る場面で自己内対話をしたりすることができたことがうかがえた。書くことにも慣れてきて、少しずつ自分の考えを言葉で表すことができるようになってきた時期ということもあり、楽しんでノートを書き進める姿が印象的だった。